

# PATENT Attorney®

パテント・アトニー

春

VOL. 61

日本弁理士会広報誌

2011

●「PATENT ATTORNEY」は「弁理士」のことです。



◎ヒット商品はいつして生まれた  
**ヒット商品を支えた知的財産権**  
**お洒落でヘルシーなスナック菓子**  
**フランスパン工房**

■特許調査よもやま話 ■ジャーナリストこぼれ話  
 知っておきたいこの技術トレンドでつく(3Dテレビ)  
 シリーズ特産品(信楽焼)  
 知的財産権なんでもQ&A ●漫画「なすびくんのお仕事」  
 特許庁からのお知らせ ●JPAA Information



## 知的財産権なんでもQ&A

**Q** 1年半前に特許出願した自社製品について、最近、同様の他社製品が販売されている事を発見しました。どの様な対策をとれば良いでしょうか。

**A** まず、その他社の特許権の保有状況や特許出願状況を調査すべきです。また、貴社の特許出願については、早急に特許権を取得できる様に手続きを行う事をお勧めします。具体的には、特許庁に対して出願審査の請求と早期審査の申請を行います。これにより、貴社が特許出願した発明について特許権が設定登録されれば、その特許発明と同じ他社製品については、その後の販売等に対して、差し止

めの請求や損害賠償の請求をする事が出来ます。なお、特許権が設定登録される迄の販売等に対しては、補償金の請求が可能な場合があります。但し、補償金の請求ができるのは、貴社の特許出願の出願公開後であって、その他社に対して警告をした後(又は、その他社が本特許出願の存在を知った後)の販売等に限られます。また、貴社の特許出願前から他社製品が販売されていれば、上記のような権利行使が出来ない可能性が高いため、ご注意下さい。詳細については、専門家である弁理士にご相談下さい。

◎このコーナーでは知的財産権に関する皆さまの質問にお答えします。質問事項を記載して、下記の住所にハガキ又はFAX.03-3519-2706で日本弁理士会 広報・支援・評価室「Q&A係」までお送りください。



※特許印紙のデザインが平成23年4月1日から変わります。



## 特許庁からのお知らせ

### 特許庁ロゴマーク

特許庁では、産業財産権制度125周年を記念して、平成22年12月に特許庁ロゴマークを作成しました。特許庁ロゴマークは、産業財産権行政を担う特許庁の姿勢を表しており、国民の皆様により身近な存在としていただけるように、平成23年1月から広報活動に用いています。

**ロゴマークの説明**  
 特許庁ロゴマークは、特許庁の英文名称である「Japan Patent Office」の頭文字「JPPO」をモチーフとして、親しみやすさと信頼感を表現しています。  
 「J」は人を表し、ユーザーの声を聞き、ユーザーニーズに応じて質の高いサービス提供をしていく姿勢を表現しています。  
 また、丸みを帯びて跳ねるその姿は、次代に向かって様々な知的財産の取り組みに挑戦し、飛躍、進化しつづける特許庁の姿勢を表現しています。  
 「ブルーの楕円」は、知性とグローバルな知的財産制度の構築を表し、様々な知的財産施策を迅速かつ的確に実施していく姿勢を表現しています。



## 意匠の底力キャンペーン 広報活動用マークの発表について

標記キャンペーンに多数ご応募くださり、ありがとうございました。応募総数、キャッチフレーズ2,263件、キャンペーンマーク358件の中から大賞をそれぞれ選考し、ここに大賞フレーズとマークを使用した広報活動用マークを作成しましたので、発表いたします。

日本弁理士会 <http://www.jpaa.or.jp>



古紙配合率100%再生紙を使用しています。





## シリーズ「信楽焼」

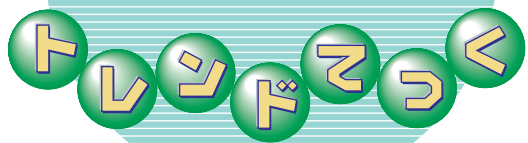
特産品 信楽焼 商標登録 第5087658号

信楽は日本六古窯の一つであり、その起源は742年に聖武天皇が紫香楽宮の造営に着手されたときに、布目瓦、須恵器などが焼かれたことに始まります。信楽焼の伝統的な特徴としては、うわぐすりをかけないで焼くことで灰が溶けて自然にうわぐすりをかけたようになる「自然釉（ビードロ釉）」、焼成することによって表面がほの赤くなる「火色」、薪の灰に埋まる部分が黒褐色になった溶岩のような色になる「焦げ」などがあり、水がめ、種壺、茶壺、茶器、徳利、火鉢、植木鉢など大物から小物に至るまで信楽焼独特の「わび」「さび」を残し今日に至っています。中でも「狸」の置物は有名で、酒買い小僧スタイルを基本として、あらゆる形、寸法、あらゆる用途にも、狸が使われ、信楽焼の代名詞ともなっています。



このコーナーに掲載御希望の方は、「特産品」のプロフィール・連絡先をFAX:03-3519-2706までお送りください。

## 知っておきたい!この技術



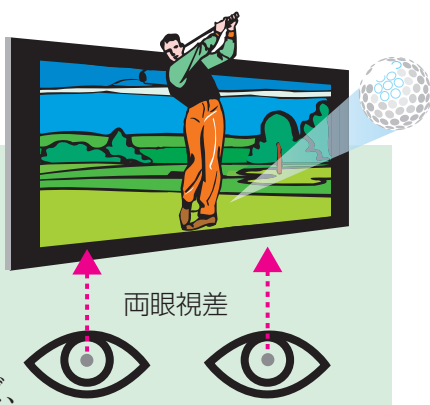
シリーズ  
4

## 3Dテレビ

人間は左目と右目で微妙にずれた異なる映像を見て(両眼視差)、この2つの映像を脳内で融合して立体として認識している。3Dテレビなどは、単純化して言えば、左右の目に異なる映像を見せる仕組みをつくり、両眼視差によって立体映像として認識させるものだ。日本で発売されている3Dテレビの主流は、フレームシーケンシャル方式という技術が用いられている。右目用、左目用と交互になっている映像を、液晶シャッターメガネを使って見るものだ。メガネなしの3Dテレビでは、左右の映像を縦に交互に並べ、ディスプレイに特殊なフィルターをかけて左右それぞれの映像を見せる、パララックスバリア方式が採用されている。3Dは、このほかにも複数の技術が開発されている。

今後、映像メディアの3D化は進むとみられ、ゲームなどのほか、医療分野での活用も始まっている。需要開拓と並行してハード、ソフトともに開発が盛んだ。

また、3D映像による眼精疲労などの問題点も指摘されており、発育途上の6歳以下の子供に利用制限が設けられるなど、国内外で標準化が進められている。



「ベビースターラーメン」を主力商品とする同社では、90年代半ばから、ラーメンと同様にスナック菓子に展開できる食品の模索が始まっていた。パンも有力候補だったが、スティック状あるいはクルトンにして、ベビースターラーメンのノウハウを応用した加工法では、油と調味液を吸収しすぎるのが難点だった。

一方で、愛知県三河地方の伝統的なえびせんべいの製造用プレス機を導入し、独自の「えびチップス」を2001年に発売した。このプレス技術を用いた新商品開発において、あらゆる食材がプレスされ、パンも押しつぶされた。

「食パン、バターロールなどさまざまなパンだけでなく、パン生地も試しました」と、開発に携わった同社開発部主任研究員の河村朗子さんは振り返る。試行錯誤を重ねる中で、フランスの食感にピンとくるものがあつた。最初はパンをプレスすることは考えていなかったという河村さん、加工法の緒を見いだすまでの3年ほどが、一番大変だったという。

02年にフランスパンからつくる商品の原型ができ、翌年に製法特許を出願。ここから具体的な商品化が始まった。スナック菓子の王者であるポテトチップスの食感に近づけるために、プレス前後のパンの厚みなど、細部の調整が続いた。プレスした平らな形状がスナック菓子らしくないと、反りもつけた。こうした点は「得意な領域です」から、すぐに加工法の見当がつかしました。袋を開けて、わつ、薄いと驚いて、さくさくと気持ちよく食べられるものをつくりたかった」と河村さんはいう。この商品に最適なフランスパンを安定的に確保するために、社内製パン工場も設けられた。

ノンフライ加工のフランスパン工房は、スーパーの主な顧客である30代、40代の女性を主要ターゲットに、お洒落でヘルシーなスナック菓子をコンセプトにしていた。テスト販売などによるマーケティングにも力を入れ、最終段階で追加された、原色を使わないパッケージ、中身がストレートに伝わり高級感もある商品名が決まったという。これが、既存のスナック菓子には手を出さなかった年配の女性たちも含め、幅広いファンを獲得する結果をもたらしした。商品の魅力とネーミング、パッケージが相まってヒット商品を生んだ好例である。

ヒット商品は、こうして生まれた!

## ヒット商品を 支えた 知的財産権

VOL.  
61

## お洒落でヘルシーなスナック菓子 「フランスパン工房」

商標登録 第5126190号  
特許 第4148320号  
特許 第4195068号  
特許 第4195069号  
特許 第4219971号



## 海のいきもの こぼれ話

魚などの海洋生物の脂質には、陸上の動物に比べ、不飽和脂肪酸が多く含まれている。肉や乳製品に多く含まれる飽和脂肪酸とは異なる生理活性や融点が低い特徴を持ち、そのうち生体の機能維持に必要な生理活性を持つものは必須脂肪酸と呼ばれている。

我々ヒトをはじめとした多くの動物はこれらをほとんど体内で合成できないため、食事から得る必要がある。特にDHA(ドコサヘキサエン酸)やEPA(エイコサペンタエン酸)などはサプリメントなどで目にする機会が多いだろう。循環器系疾患の発症を予防する効果も確認されている。

さてその生理活性ゆえに注目されたDHAやEPAだが、その由来は深海微生物で、食物連鎖によって海洋生物に蓄積されている事がわかってきた。しかしその生産の理由はまだ不明で、微生物自体の研究からは、これらの多くが生息する極限環境への適応機構が関わっていると推測されている。

極限環境は地球初期の環境を今も残し、それを探れる可能性が残された場所でもある。生命の起源をはじめとした多くの謎の解が、ここに隠されているかもしれない。(鈴木)

